

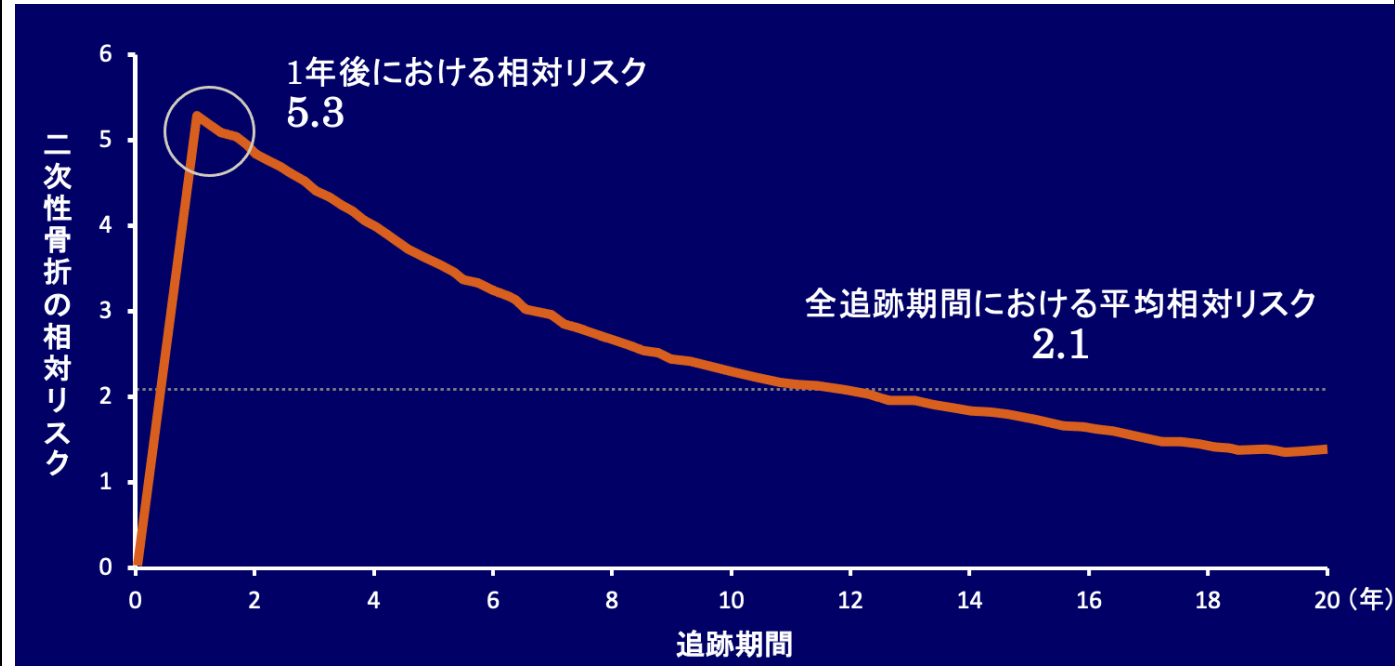
テーマ	Education / Empowerment（教育・啓発）の医療従事者		
執筆者の 所属と職種 および氏名	健愛記念病院 整形外科 医師 池田聡	執筆年月日	2026/06/15

<ポイント>

骨粗鬆症の病態と骨折の関連性、薬物治療、非薬物治療の重要性（転倒予防、栄養改善など）、FLS の意義

<本文>

医療従事者への教育・啓発について考えるにあたり、最も重要なことは何故骨粗鬆症治療・骨折予防を行うのかということを理解してもらうことと考える。超高齢社会の進む我が国において、健康寿命の延伸は健康日本 21（第三次）の目標の一つとされている¹⁾。健康寿命延伸に対して介護予防は大きな鍵となる。介護が必要となった主な原因の推移で「骨折・転倒」だけは平成 19 年以降上昇し続け令和 4 年には 13.9%（第 3 位）にまで達している。さらに、日本整形外科学会の調査では、大腿骨近位部骨折患者は年々増加し続け³⁾、1 年後の死亡率は 10.0%とされているが加齢とともに死亡率は高くなっている⁴⁾。さらに、二次性骨折リスクは骨折後 1 年以内が最も高く、以降経年的にリスクは軽減する⁵⁾（図）。したがって、新規骨折患者において受傷後 1 年は骨折予防に関して重要な時期であることを認識し治療にあたることが求められる。



医療従事者は上記を十分に認識し、骨粗鬆症性骨折患者の治療にあたるべきで、このことが共有されていないと治療率や治療継続率は向上せず、二次性骨折を防げず、健康寿命の延伸にも寄与しない。

二次性骨折予防のためには、薬物治療ならびに非薬物治療（転倒予防、栄養改善など）が重要である。薬物治療においては、骨折予防に有効性の高い薬物を選択し継続することが重要である。しかしながら、日本整形外科学会の調査では、大腿骨近位部骨折患者に対しての治療薬としては、活性型ビタミン D₃ 製剤単剤が最も使用されていた⁴⁾。活性型ビタミン D₃ 製剤の骨折予防効果は低いとされており⁶⁾、適切な薬剤の選択が課題である。一方、非薬物治療においては、転倒予防対策や食事指導が重要である。このように二次性骨折予防に関してさまざまな面からの評価と介入が必要とされ、国際的にも多職種でチームとして取り組む Fracture Liaison service（FLS）が推奨されている。FLS 実践においては「FLS クリニカルスタンダード」を参考に進めることが望ましい。さらに、国際骨粗鬆症財団（International Osteoporosis foundation:

IOF) では世界中で FLS 施設の登録と評価を行っており、65 カ国、1325 施設が登録しており、日本も 154 施設が登録している (2026.6.15 現在)。自施設での骨折患者に対する 13 の評価項目 (患者の特定、患者の評価、骨折後リスク評価の時期、椎体骨折、評価ガイドライン、続発性骨粗鬆症の原因となる要因、転倒防止サービス、健康および生活習慣上の危険因子に関する多面的評価、投薬の開始、治療薬の評価、Communication Strategy、長期管理、データベース) のデータを入力することにより、Gold、Silver、Bronze 等の施設の総合評価がなされる。その評価結果から FLS として改善すべき点が明らかとなり FLS の質の向上につながる。未だ登録していない施設は是非 IOF の HP (<https://www.osteoporosis.foundation>) から施設登録を行い、評価項目を入力し、世界基準の評価を受けることを推奨する。

<事例>

特になし

参考資料

1) 健康日本 21 (第三次)、厚生労働省

HP (https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kenkounippon21_00006.html)
より

2) 国民生活基礎調査、厚生労働省 HP (<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21kekka.html>)

3) 池田聡, 大腿骨近位部骨折の骨折治療と FLS. JJOS, Vol (12), 123-28, 2016.

4) Inage K, Kondo N, komatsubara S, Nakamura Y, et al. Current status of patients with hip fracture in Japan: A nationwide survey. J Orthop Sci, 31, 230-38, 2026.

5) van Geel TACM, van Helden S, P Geusens P, et al : Ann Rheum Dis 68 : 99-102, 2009.

6) 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会 2025 : 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2025 年版. ライフサイエンス出版, 東京. 2025.

7) FLS クリニカルスタンダード、日本骨粗鬆症学会 HP http://www.josteo.com/ja/news/doc/200518_3.pdf

COI : あり 講演料 旭化成セラピューティクス、第一三共